

世界中で新型コロナウイルスが猛威を振るっています。また、その話題にかくれてしまっていますが、インフルエンザも流行しています。その為、ひのき工房では職員対象に感染症の勉強会を実施いたしました。今後、ひのき工房では、新型コロナウイルスやインフルエンザへの対応に力を入れていきたいと思ひます。

おに そと まめ せつぶん かい 「鬼は外〜！！」 豆まき(節分)会



2月3日に、豆まき(節分)会を行いました。職員が鬼役になり、豆まきを行いました。参加された利用者さんは皆さん笑いながら鬼役の職員に遠慮することなく「鬼は外〜」と大きな声を出しながら、豆を力いっぱい投げていました。

豆には、「穀物には生命力と魔除けの力が備わっている」という言い伝えがあり、または語呂合わせで「魔目(豆)」を鬼の目に投げつけて鬼を滅する「魔滅」に通じ、邪気を追い払い、一年の無病息災を願うという意味合いがあるそうです。豆を撒き、撒かれた豆を自分の年齢の数だけ食べる。また、自分の年の数の1つ多く食べると、体が丈夫になり、カゼをひかないという習わしがあるところもあるそうです。なので、ひのき工房では、コロナ、インフルエンザにたぶん負けないと思ひます。

こうぼうしょくいん ひのき工房職員 かんせんしょう 感染症について学ぶ まな



ことは、インフルエンザを始め、世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルスも流行しています。その為、2月14日に、ひのき工房では職員を対象とした、勉強会を行いました。今回のテーマは「感染症・誤嚥」について看護師の岡本仁美さんを講師に迎え、勉強をさせて頂きました。

今回の学んだことを日々の支援に生かし、施設内での感染症の感染・蔓延防止に努めていきたいと思います。今後も、定期的に職員の勉強会を実施していく予定です。また、感染症対策として、1日3回の施設内、車輦内の消毒を継続し、マスクの着用、手洗いの徹底を声掛けしていきます。

しょくじかいちゅうし、こうりゅう（ゲーム）会を実施



手作り作品展（食事会）は、新型コロナウイルスの関係で、イーアスタかお高尾でのお食事会は中止とさせて頂きました。その為、施設内でのゲーム会に変更しました。みなさん、映画鑑賞、卓球など好きなことをして過ごしました。

尚、手作り作品展の販売は2月21～23日まで予定通り行いました。

2020 TOKYO パラリンピック (2)

ボッチャ (ルール詳細)

男女の区別はなく、障がいの内容や程度などにより4クラス (BC1～4) に分けられ、1対1の個人戦、2対2のペア戦、3対3の団体戦の3種類があります。さまざまな障がいの選手に対応するため、クラスによってルールがアレンジされています。例えば、ボールを手で投げることが難しい選手は、足で蹴ったり、競技アシスタントのサポートを受けたり、滑り台に似た勾配具 (ランフ) を使って転がしたりすることなどが認められています。



～ 選手紹介 ～

すぎむら ひでたか せんしゅ しゃしんみぎ
杉村 英孝 選手 (写真右)

学生の時は車イスのサッカーなどをしていたが、高3の時施設の教師に見せてもらったビデオをきっかけに始めた。2016年3月北京で行われたボッチャ世界選手権大会では3位に入り自身初となる国際大会個人メダルを獲得した。

同年9月に行われたリオデジャネイロパラリンピックでは日本代表で主将を務め団体戦では準優勝を果たし、ボッチャ日本代表として初のメダル獲得をし、個人戦では準々決勝まで行ったがタイフレイクで敗れる。

2018年12月に行われた日本選手権では決勝で廣瀬選手を破り2連覇を果たした。

2020 TOKYO パラリンピック (3)

ゴールボール (ルール詳細)

公平に競技を行うため、全員アイシェード(目隠し)を着用します。バレーボールコート位のコートを使い、1チーム3人の2チームで対戦します。鈴の入ったボールを転がし、相手のゴールに入れて得点を競うスポーツです。

守備側は3人で協力し、全身でゴールを守ります。1試合は前後半12分ハーフで、延長戦(前・後半各3分)になった場合は「ゴールテンゴール方式」で行われます。

今年の東京パラリンピック代表の1次内定選手を発表し、女子は若杉遥、欠端瑛子が選ばれた。3大会連続出場となります。

わかすぎ 若杉
はるか 遥 選手



けつはし 欠端
えいこ 瑛子 選手



わかすぎ 若杉 遥 選手

日本パラリンピック史上初となる団体球技での金メダル獲得を成し遂げた。ゴールボール日本代表の一員であるロンドンパラリンピックに日本選手団最年少の17歳で代表に選ばれ、金メダルを獲得し、2014年自由選抜入試で立教大学社会学部に入學、2016年のリオデジャネイロパラリンピックの代表として連覇を目指した。今回は、メダル奪還を目指す。

けつはし 欠端 瑛子 選手

高校生で競技を始め、先天性白皮症による弱視で競技を始めて2年で日本代表になり、ロンドンから3大会連続の代表に内定。体を回転させて勢いをつけて投げる力強いボールを武器に、日本の得点源として活躍、2012年ロンドンパラリンピックでは金メダルを獲得している。